

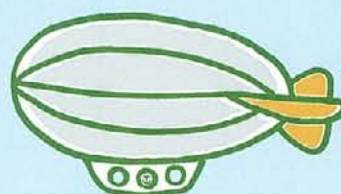
TU

Free magazine that introduces
Teikyo university Utsunomiya campus.

No.2

帝京大学 宇都宮キャンパス

地域経済学科特集号



2011年4月、

宇都宮キャンパスに初の文系学科が誕生しました。

それが、「経済学部 地域経済学科」。

地方都市は今、様々な問題を抱えています。

シャッター通りになってしまった商店街や、

農村の人手不足、企業の海外進出に伴う雇用の問題…

日本の経済がまた活気を取り戻すには、

このような地方の問題解決に取り組むことがとても重要。

地域経済学科は、地域経済の再生・活性化に役立てる人材を育成するために創設されました。

そこでTJ第2号では、地域経済学科を大特集！

どんなことを学んでいるの？

今年入学した1年生の近況と感想は？

など、具体的にご紹介します。

地域の問題は日本全体に関わることであり、

私たちの生活に直面する問題。

この学科を知ること、少しでも地域経済への関心が

高まることを、熱望しています！

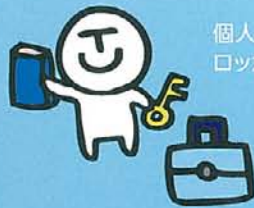
地域経済学科って 何学科？

INDEX

- 1** 地域経済学科棟完成!
P03
- 2** 実社会で活躍していた先生たちによる「実学」
P05
- 3** 耕作放棄地に、菜の花畑を復活させよう!
P07
- 4** 被災地で震災を学び、復興を考える
P10
- 5** 地域の人々に向けての取り組み
P11
- 6** 学生座談会
P12
- 7** NEWS
P15



地域経済 どんなな学



個人の荷物は
ロッカーに入れよう!

テレビモニターもあるから
後ろの方でも、しっかりと
講義が受けられるよ。



地域経済学科棟 完成!

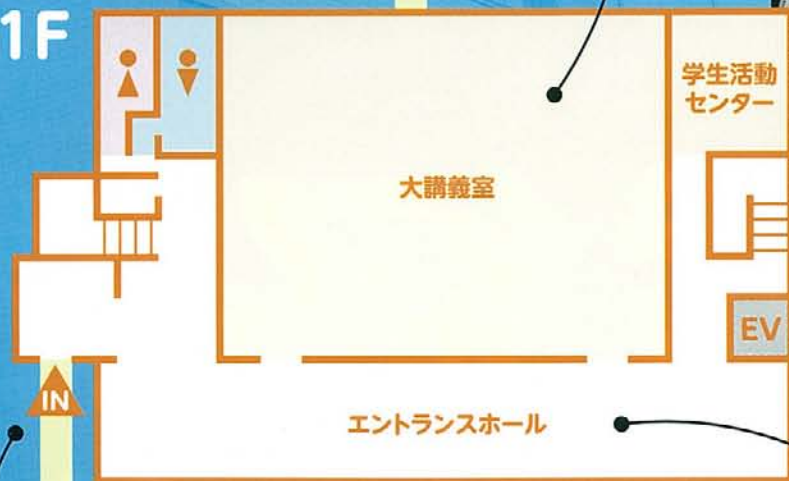
2011年9月に完成した地域経済学科の学科棟。広いエントランスや
大講義室など、ピッカピカの棟内を1F~3Fまで一気に紹介します。

NEW!

大講義室は
とっても
広いんだ。



1F



完成した学科棟を
のぞいてみよう!

1

Teikyo
university
Utsunomiya
campus.



入り口入ると、どーんと広い
エントランスホール。

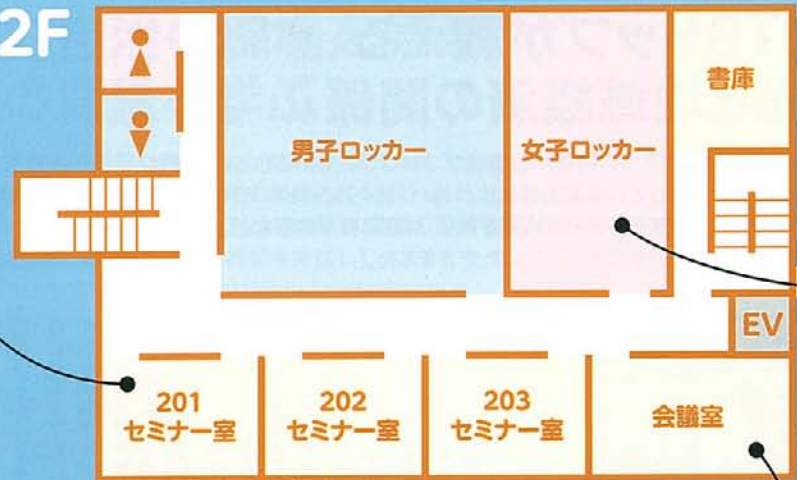




セミナー室では、
いろいろな授業が行われる。
明るくて使いやすいだね。



2F



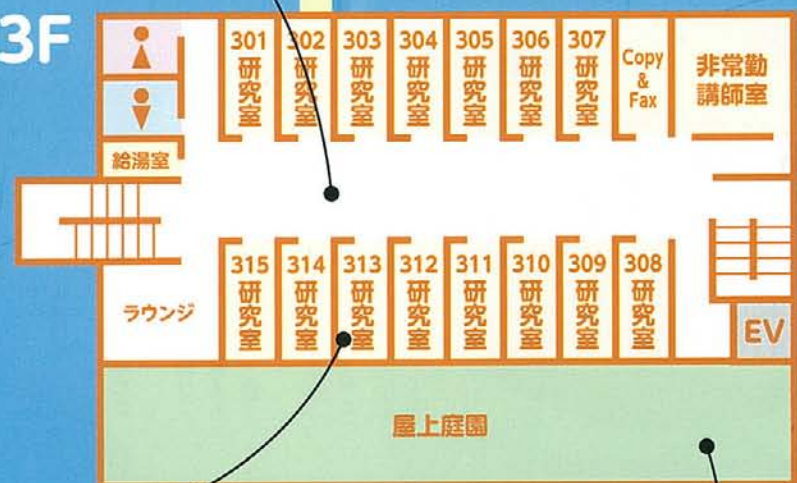
ここでは、様々な会議が行われるんだ。
何を話すのだろう・・・



吹き抜けがあるこのスペースは、
先生への質問や、休憩・雑談など
気軽に使うことができるんだ。



3F



先生たちの研究室も
まだピカピカ!



なごむな〜。



実社会で活躍していた先生たちによる「実学」

地域経済学科には、様々な先生がいます。このコーナーでは、実社会で活躍されていた先生をフィーチャー。実体験をもとにどのような授業を行い、どのような目標を掲げているのか、たっぷりとお話をお伺いしました。

旅行による経済効果は、とても大きい。

2003年、当時首相だった小泉氏が観光を国家的な課題とみなし、「日本において、観光は重要である」と発言した。実はこの言葉には地域活性化において、とても重要な意味がある。

「例えば2009年に日本国内で支払われた旅行の消費額は、総額約25.5兆円と推計されています。この金額は、宿泊費、交通費、飲食費、お土産の支払い、旅行前の準備等の費用が含まれています。つまり、旅行の経済効果は農業や商業など、多種多様。幅広い産業へ波及し、旅行者が訪れる地域への効果は多岐にわたります。国が観光を重視し、地域の活性化を促進する政策に取り組んだ意義は大きいと思います」



手作りのレジュメ

知識も経験も豊富な松山先生だが、「教える事は学ぶ事」という考えのもと、授業に臨む際は、自ら時間をかけてレジュメ、資料等を作成している。

松山先生は、旅行業界で長年働いてきた。観光が日本の経済にどんな影響があるのか、日本人の旅行にはどんな特色があるのかなど、実際の経験も含めた話をしていきたいという。

「私はツーリズム産業で実際に行っていること、つまり実学を教えられます。理論と実践に加え、仕事を通しての生き甲斐、働くことの意味なども伝えていきたいですね」

どの地域にも、必ず光るものがある。

先生は学生から「栃木のどんな所が好きですか？」という質問をされた。普通の会話に聞こえるが、これはとても良い質問であるという。

「観光とは、国の光を観る」に由来していますが、地域ごとに光るものが必ずあります。それは、地域の自然と人々が調和して長い時間をかけてできた独自の風土です。将来、学生のみならず様々な場所に行って仕事をすることで、その土地の特性がより深まり、観光地としての魅力も高まっていく。神社仏閣などの観光スポットだけが、観光

ではないというわけだ。

「今年の震災で大きな被害を受けた地域があります。住むにはまだとても厳しい。それでも、住民はその地に住みたいという。これはその土地が持つ大きな力です。住んでいる地に誇りを持っている。こういう魅力のある地に、人は観光で足を運ぶんだと思います」

観光による地域の活性化と経済の結びつき。その根底にある考え方や哲学も教えようとしている松山先生は、最後にこう語ってくれた。

「ここまで話してきたことを実現するのは、人です。この役割を担う人材がこの学科から育つてほしい。そう願っています」



こんなこと、おしえてます。

「旅行産業論」授業の概要

- ◆ 観光は経済や雇用にどんな意味があるのか
- ◆ 日本人と外国人それぞれの旅行の特色は？
- ◆ 日本人の国内旅行、海外旅行はどうなっているのか
- ◆ 旅行業は具体的にどんな仕事をしているのか
- ◆ 旅行業で働くことはどんな意味があるのか
- ◆ 栃木県の観光はどうなっているのか 等

松山先生って、どんな人？

松山 龍二 客員教授

東京教育大学（現筑波大学）理学部卒業後、日本交通公社（現JTB）入社。国内旅行部長、取締役九州営業本部長、常務取締役人事部長などを経て96年に社長に就任。2002年から取締役会長を務めるなど、長年旅行業界に携わってきた、まさにプロフェッショナル。

「若い時にいろんなチャレンジをしてほしい。旅行はその一つ」と先生はいう。「地元から出るだけでも発見があり、一人旅ならさらに学ぶことが増える。トラベルにトラブルは付き物だが、実際に行ってみると素晴らしい発見がある。ぜひ体験してほしいですね」。数々の地を訪れてきた先生だからこそ発せられる、意味深い言葉だ。





【内貴滋先生 地方自治法・行政法】

地方自治の現場を見る、その背景を学ぶ!

国、地方自治の振興に長年携わってきた内貴先生は、もともと自治省(現総務省)の出身。経済や社会活動など、国民生活の基盤に広く関わってきた人物です。先生の経験をもとにした講義だけではなく、実際の現場を視察するなど、新たな視点と思考が生まれる授業を実践しています。

内貴先生って、どんな人?

内貴 滋 教授

東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)入省。以後北海道庁、大分県地域振興課長、富山県総務部長、北九州市副市長を歴任し、自治体の第一線で活躍した。他にも在英日本大使館一等書記官、ロンドン事務所長として英国勤務、自治大臣官房企画官(ふるさと創生担当)、総務省審議官、消防庁消防大学校校長を務めるなど、立場は変わっても国と地域に視点をおいてきた第一人者。ちなみに、社会人になってから15回以上引越をしたとのこと。その数字だけでも、先生の実績と経験の豊富さが伺える。

法律に潜む「心」の部分を考える。

「地方自治法」とは、地方公共団体の組織や運営に関して定めている法律であるが、内貴先生の授業では、法律の基礎を「から覚えさせるのではなく、なぜこういう法律になったのか?何のためにあるのか?その思いや考え方を、まずは学生たちに教えていきたいという。

「地方行政のしくみを学んでいくのはもちろんですが、住民の幸せを守るために、なぜそのような法律になったのか?法律の中に潜んでいる「心」の部分と一緒に考えていきたいですね。地域経済学科には、自分の力を地域の人のために尽くそうという志を持っている人が多いと思います。そのためにも、国や地方公共団体と住民の関係をきちんと学びながらその背景にある「心」を知ることが、将来の礎になるはずです」

経験から視野は広がり、思考は深まる。

この夏、授業の二環として課外授業が行われた。場所は、栃木県庁である。

「私の経験を踏まえながら、直接現場を感じてもらえるような授業をしたいと思っています。学生1人ひとりと、経験値も、考え

方も違います。例えば、県議会議事堂という実際に議論が行われている場所に立つことで、教科書の話が現実問題として語りかけ、そして身にしみてくる。これは重要なことです」

さらに先生は、「体験」してみることが、将来の夢も左右するという。

「学問の基礎を「から」ツツツと学ぶことはもちろん大切です。しかし、実践や経験を通して考えながら学ぶことで、モノの見方は大いに変わってきます。自分の目標を大きくすることもできるし、やりたいことが変わって新しい夢が生まれるかもしれない。様々な学び方で、自分の夢を探してほしいですね。今はまさにチャレンジの時期ですから」

新しい世界を見ることで、視野はさらに広がる。「将来この学科から、視事や市長が誕生してほしい」そう最後に語った先生の言葉も、決して大げさではないだろう。



難しい内容が多いのですが、先生が分かりやすく解説してくれるので、理解できないまま授業が終わってしまうことはありません。復習の意味も込めて、友人とは授業の内容をさらに確認し合うようにしています。内貴先生を中心にクラスメイトが一丸となって学んでいる感じがですね。

地域経済学科 1年 佐々木 祐輔(栃木県立黒磯南高校出身)

2 Teikyo university Utsunomiya campus.



栃木県庁を視察してきました!

7月8日、栃木県庁で課外授業を行った。

県議会議員から県政についての講義を受け、あわせて県議会議事堂、特別委員会などを視察。地方自治の第一線の現場の状況を学んだ。

学生は事前に学習して臨んだので、専門的な説明も十分理解できたようだ。

また、普段では入れない本会議場にも入場を許可されるなど、積極的に受け入れてもらうことができた。

今後も、このような「場」を継続的に視察できるよう計画している。



フィールドワークに

密着

耕作放棄地に、 菜の花畑を 復活させよう！

埼玉県が募集した中山間地域活性化の支援活動の「ふるさと支援隊」という事業に、地域経済学科の山田先生の企画が採用されました。現在使用されていない農地(=耕作放棄地)一面を菜の花畑にすることで農山村の新たな価値を見出し、地域活性化に結び付けようとするものです。わずかな面積から始まったばかりのこの企画の意義と今後の目標を、先生にお伺いしました。



3

Tokyo
University
of Agriculture
Campus



自治体と大学、地域住民の力で町おこし!

今年の8月より、山田先生が担当する「ライフデザイン演習」の学生たちが「ふるさと支援隊」の活動に参加している。ふるさと支援隊とは、埼玉県農林部農地活用推進課による事業。埼玉県内の中山間地域の多くの集落では、少子高齢化や過疎化の進行で、農林業は衰退し、地域活動の維持が困難となっている。そこで、平成22年度から大学生の持つ新しい視点や行動力など、外からの力を活用して、集落の活性化を図ろうと始まった。

企画の提案を行い、実現性を前提としたアイデアを認められた大学が採用され、本年度は9大学が埼玉県内で活動を実施。山田先生は、秩父市の耕作放棄された急傾斜農地を復元して菜の花を植栽することをメインに、地域のお祭りにも積極的に参画し、高齢化した集落に活力をもたらすという企画を提案した。

もともと秩父市大滝地区(旧大滝村)は、埼玉県の自治体の中で面積が最も広く、人口は二番少ない行政区。農山村の観光振興を専門としている山田先生にとって、昨年からはフィールドとして研究を始めた地域でもあった。

「以前は登山やハイキングなどで栄え、民宿も多くありました。が、次第に衰退。10年ほど前までは、この地に菜の花畑があったことから、菜の花畑を復活させ観光スポットにし、新たな価値を創出することで地域の誇りにもつなげたいという思いがありました」

その土地に行って、はじめて分かること。

菜の花畑づくりを実施するのは、大滝地区の中でも急斜面に立地する栃本集落。農作業に慣れている人でも、かなり困難な場所である。参加した学生たちは初めは戸惑いがあったものの、地元の農家の方々の温かい指導のおかげで、着々と作業を進めている。

「使われていない畑の荒れ地が変わっていく様は気持ちがいい! 耕すのは大変ですが、最後までやり通したいです! 斜面は思っていた以上に大変。山の中のこんな所まで人が住んでいることに驚きました」

学生からは一様に良い体験をしたという感想が聞けたが、先生は学生たちにとっての機会をさらに活かしてほしいという。「実際に地域を訪れ、荒れた農地を菜の花畑にする活動も大事ですが、それを通して、さまざまな人たちの関わり、地域の実情に触れることが、一番の教材です。たとえば、農家や住民の方と話すことで、農山村の現状や問題点を発見することができず。また、行政の方と接することで、地域を支えている人の役割について学ぶ機会にもなります。その上で、真の地域活性化とは何か、さらにそのために自分に何ができるかを考えてほしいです」

今回参加した学生は1年生。研究を深めるというよりは入門編であったが、現場に行く意義は感じられたはずだ。今後の研究やフィールドワークに、ぜひ役立ててほしい。



菜の花畑復活プロジェクトの全貌！

8/24～26 草木(雑草)の除去、土の掘り起し作業

雑草が生い茂った耕作放棄地を、菜の花の種をまくための畑に蘇らせるのが、今回のミッション。
深く張った雑草の根を取り除き、鍬で土を掘り起こして作業を行った。



10/3 菜の花の種まき 取材班はこの日に密着！

まずは、前回から1ヶ月経ったために生えてしまった雑草を取り除き、畑を耕す。
その後、斜面に畝をつくり、菜の花の種まきを行った。

1日の流れ

- 早朝 山田先生と学生たちが車で宇都宮を出発。
- 09:00 秩父市大滝地区に到着！あまりの景色の良さにびっくり畑近くの公民館で身支度。
- 09:30 畑に向かい、作業開始。土を耕すところから始まる。地元の農業委員のみなさんは、なんと6:00から作業してくれていたとのこと。あまりの急斜面にもびっくり！初心者には、歩くだけで足ががくがく。
- 11:00 種をまくために、斜面に畝をつくる。
- 12:00 昼休憩。心地よい疲労感と、素晴らしい景色の中で食べるおにぎりは最高！
- 13:00 午後の作業開始。いよいよ種まき！「ゴンベイ」という機械を使って効率的に種をまいていく。
- 14:00 ひとやすみ。初秋の風が気持ちいい。
- 15:30 種まき完了！本日の作業はこれで終わり。おつかれさまでした！

斜面を耕すのは一苦労。この地で長く生活してきた住民の方にコツを教えてもらい作業に励む。

種まきは、手押しの機械を使います。均等に、ムダなく種をまける優れたもの。



農作業の指導をしている、地元の農家のみなさん。左から 山中徳明さん、千島貴さん、山中則一さん、山中豊治さん

埼玉県農業ビジネス支援課の小林さん(左)と、秩父市大滝総合支所の引間さん(右)。このプロジェクトは、お二人の協力があって実現されている。

この種が来年の春に菜の花を咲かせ、畑一面が黄色くなる日がとても待ち遠しい。



10/23 紅葉まつりのお手伝い

周囲の山々が赤や黄色に染まる秋の紅葉シーズンにあわせ、毎年開催される「奥秩父大滝紅葉まつり」。
同時開催されるハイキングや、郷土芸能披露などのイベント運営をお手伝い。



11/7 柵づくり

イノシシや猿から菜の花の芽を守るために、畑のまわりに柵を作成。今年の作業は、ひとまずおしまい。地域の方たちに、春まで見守っていただく。



菜の花畑復活プロジェクトの今後

耕作放棄地の畑一面を菜の花畑にする活動を核としながら、地域活性化につながる様々なしくみを考えていく。例えば、菜の花・菜種油を利用した商品の開発や、菜の花畑づくりに興味を持った人への活動参加の呼びかけ、さらに集落内の空き家の有効活用など。大滝地区にとつての地域活性化とは何か、さらのそのために最適な方法、アイデアを立案できるかどうか、このプロジェクトの成功を左右する。

ふるさと支援隊として取り組みを始めた秩父市での活動を続けながら、今後は地域経済学のある栃木県においても地域復興につながるフィールドワークを行いたいと考えてます。



山田 耕生 講師

立教大学大学院観光学研究所博士課程単位取得退学。立教大学観光学部、(財)日本交通公社客員研究員、共栄大学国際経営学部を経て帝京大学講師。専門は観光地理学、観光地域論。

被災地で震災を学び、 復興を考える

今年の9月、経済学部が主催した特別教育プログラムが、東日本大震災の被災地で実施されました。

震災のあった実際の現場で見たもの、被災者から語られた言葉。それらすべてに復興へのヒントがあり、学生は皆、何かを手にして帰路につきました。全員が真剣に取り組んだ4日間の内容を、参加した地域経済学科の先生方にお伺いしました。



3泊4日の研修では、ボランティア活動や講義・ワークショップが行われました。



自分の目で見て、今後の課題を自ら考える。

9月12日～16日、被災地で3泊4日の研修が実施された。今回の対象は、主に八王子キャンパスで学ぶ学生であったが、地域経済学科からも3人の先生が参加した。これは、被災地のボランティア活動を含む特別教育プログラム。学生が実際に被災地を訪ね、かつてない大震災の実態に直面することで、現在の問題点そして今後の課題を自ら考えるための企画となっている。

プログラムの中心は、講義・ワークショップとボランティア活動の二つ。講義は、実際に被災された方から、「被災地と周辺観光地の風評被害について」「震災復興と観光まちづくりについて」など、実体験をもとにした被災地の実情や現状についてお話を伺うことができた。ボランティア活動は、気仙沼市大島での菜の花畑の清掃活動と種まきをはじめ、石巻市の小学校校庭の泥かきや子どもたちへの絵本の読み聞かせなど、様々な活動を精力的に実施した。必要とされるボランティアは時期によって違うと言われるが、今回は地元の企業と連携し、被災地が本当に望んでいるボランティアをすることができ、大いに喜ばれた。

現場で知る新たな情報。新たな考え方。

今回の東日本大震災は被害の大きさ、被災地の広がりもあり、連日様々なメディアで目にする機会があった。しかし被災の状況を自分の目で確認することでメディアでは分からない事実を知り、被災者から直接話を聞くことで新たな感情も芽生えたのではないだろうか。

「小学生が避難した経路を実際に歩きましたが、そこは凄まじい斜面。こんな場所を小学生が走って逃げたのかと思い、現場を見る大切さを改めて実感しました。また、現地の人々の話を聞くと、記憶にも強く残る。その重要性を参加した全員が感じたはず」と溝尾先生も話してくれた。

講演で被災された方々が話をしたが、地域によって、また年代によっても、今後の復興に対する考えが違っていったという。地域の特性に合わせ、どのように復興させていくべきか?それを考えることこそが、地域経済学科の学生たちが担う役割なのだと思う。

ぜひ今回の様子を、3人の先生から聞いてみてはどうだろう。経験をしてきた先生の言葉にも、現地の人々の言葉にも、学ぶべきことはたくさんあるはずだから。

特別プログラムの内容 (抜粋)

※A班:9/12(月)～15(木) B班:9/13(火)～16(金)の2班に分かれて実施しました。

ボランティア活動内容 ※複数のグループに分かれ、活動しました。

- ・気仙沼市大島／菜の花畑清掃 ・石巻市立鹿妻小学校／避難所運営支援
- ・石巻市立相川小学校／被災校舎清掃・校庭整備
- ・石巻市立釜小学校／読み聞かせ・清掃 ・東松島市／被災施設清掃

講義・ワークショップ ※復興の最前線で活動する方々に、下記のテーマで講演をお願いしました。

- ・震災前と震災後の南三陸町の観光
- ・被災地と周辺観光地の風評被害
- ・震災後の観光振興における自治体の役割
- ・被災地復興イベントと集客効果
- ・被災地において学生、ボランティアはどんな役割を果たすことができるのか

乗川 聡 講師

早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。フランス留学後、早稲田大学助手を経て帝京大学講師。専門は経済史・経済学。



溝尾 良隆 教授・学科長

理学博士。東京教育大学理学部卒業。(財)日本交通公社調査部主席研究員を経て、立教大学観光学科教授、同大学観光学部長、日本観光研究学会会長、観光政策審議会専門員委員を経て、帝京大学経済学部教授。



溝口 佳宏 講師

一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。成城大学、明治学院大学等講師(非常勤)を経て帝京大学講師。専門は経済学・国際経済学。



エンジョイカガク!!で 栃木・福島物産展をプロデュース

「いま、わたしたちにできること」に取り組んでいきます!

9月11日に宇都宮キャンパスで開催された、理工系進学体験イベント「エンジョイ!カガク!!」。理工系の研究や勉強のおもしろさをより多くの人々に実感していただくために、例年行われています。

地域の方々が多数来場される、このイベント。理工系ではありませんが、地域経済学科も「自分たちができる何かをしたい!」という想いから、「震災復興企画:栃木・福島物産展」をプロデュース。東日本大震災に伴う風評被害に苦しむ福島・栃木産の農産物や、特産品の直売会を企画しました。

栃木県河内農業振興事務所、河宇地方農業振興協議会、特定非営利活動法人 素材広場(福島県)、ろまんちっく村直売所、宇都宮餃子館(宇都宮餃子会)の方々のご協力により実現した直売所には、たくさんの方々立ち寄りしました。このことが、風評被害について考える“きっかけ”になればと願っています。



地域経済学科の1年生たちも、運営スタッフとして大活躍!一生懸命呼び込みを行い、夕方には声がかれてしまったほど。

理工系進学体験イベント 「エンジョイ!カガク!!」とは?

「近年増加しつつある理科離れをなんとかしたい!」という想いから始まったイベント。理工学部の学科だけではなく、ものづくりや研究に携わる様々な企業によるプログラムも満載です。リニアモーターカーやヘリコプターに乗ってみたり、化学の実験を試してみたり...etc. 実際に見たり触ったり、体験を通して理工系のおもしろさを実感できると、毎回大好評です。



一般の方々に向け、公開講座を開催!

地域経済学科開設以前から、宇都宮キャンパスで定期的で開催されている公開講座。地域貢献への一環として行われています。

この10月にも、地域経済学科、理工学部の先生方が講師を務め、3回の公開講座を開催。多くの方にご参加いただきました。

- 第1回 大震災における農産物直売等の新たな役割 (10/1)
- 第2回 暮らしの中の放射線 ~身近な放射線を理解し、科学的に正しく怖がる~ (10/15)
- 第3回 原爆被災と地域社会 -広島の実験 (10/22)



地域経済学科は、学内だけでなく、地域の人々との交流を積極的に行っていくと考えています。ここでは、9月・10月に行われた取り組みをご紹介します!

地域の人々に向けての取り組み

5

Teikyo
university
Utsunomiya
campus.

地域経済学科1期生の声をTU誌上で大公開!

学生座談会

地域経済学科の1年生も、入学から半年以上が過ぎました。そろそろキャンパスライフにも慣れた頃ですね。そこで今回は、4人の学生に集ってもらい、なぜ地域経済学科を選んだのか?実際の授業はどう?将来の夢は?など、いろいろな質問を投げかけて、今の気持ちを率直に話してもらいました。地域経済学科が気になっていた人、必見です!



池田 美咲

栃木県立宇都宮商業高校出身

伊藤 祐樹

栃木県立宇都宮東高校出身

山本 飛翔

栃木県立大田原高校出身

真船 明日香

栃木県立大田原女子高校出身

6 Teikyo university
Utsunomiya
campus.

偶然にも4人全員栃木県出身ですが、宇都宮キャンパスの地域経済学科を選んだ理由は何ですか？

伊藤：高校生の時から将来は教師になりたいと思っていました。この学科で**社会科**の教員の免許が取得できることを知ったので、入学したいと思ってたんです。現在、自転車でも15分ぐらいかけて通学していますが、自宅から近いというのも選択理由の一つかな(笑)。

山本：僕は経済学部に入りたかったのですが、いろんな大学を探してました。今まで栃木県に経済学部のある大学が無かったけど、帝京大の宇都宮キャンパスにこの学科ができることを知って。経済学部の中でも「地域経済」という新しい学科で、しかも創設された1年目に自分が入学できるのは面白いと思ったからです。

真船：私も高校生の時から経済学部に入りたかったんです。伊藤さんと同じように、家から通える経済学部が良かったので(笑)、この学科が宇都宮にできたのは嬉しかったですね。希望通りになりました。

池田：高校が商業高校だったので、**もともと経済には興味がありました。**大学でもっと深く勉強したいと思って、地域経済学科を選びました。

高校時代から経済学部を希望されていた方がほとんどですね。では、実際に入学した感想はいかがですか？

伊藤：入学して半年以上経つけど、あっという間でした。授業やサークル、アルバイト

トなどで忙しかったせいか、時間が早く過ぎて行った気がします。ただ、上手にスケジュールを組めば時間を有効に使えるので、自分の時間をつくる工夫をしています。少人数のクラス担任制があって、勉強をするにしても、仲良くなるのもちょうどいいのかも。クラスのみならず食事するのも楽しくて、大学に来るのが楽しみにしています。



山本：当たり前ですが、高校生活と違うことが多すぎて戸惑いました。今までは授業の時間割が決まっていたけど、大学では自分で教科を決めて時間割をつくる。そんな初歩的なことから、初めは苦労しました。質問から少しづつわかるかもしれないけど、食堂に女子がいることに驚きました！僕は男子校だったので、女子がいる学校生活に慣れていなくて(笑)。ドキドキしましたが、今は少しずつ話せるようになりました。

高校生の時は決められた授業をみんなを受けていましたが、大学は科目を自分で選びますよね。自由に選べるということに、責任感みたいなものを感じています。他にも、大学ではいろいろ人と接することができるので刺激的！キャンパスライフを満喫しています。

池田：私も、自分で1日の時間割がつくれるのは嬉しいですね。朝が苦手なので、できるだけ遅い時間に通学したかったのですが、今は週3回1限の授業があるので、頑張ってる遅刻しないようにしています(笑)。女子が少ないという話が出ましたが、少ない分、全員と友達になれます。一致団結できて良いですね。

高校生活と違うことで戸惑いがあったようですが、半年経った今はその違いを楽しんでいるんですね。

では、面白い授業は何ですか？

山本：僕も「教職論」が一番面白いですね。毎回取り上げられるテーマは難しいですが、興味が湧くような資料を先生が作ってくれているので、毎回楽しみにしています。また、先生が実際の教員として実践してきた経験談を話してくれま。例えば、教室が騒がしくて仕方がない時にはどうすればいいのかなど、きくと将来に役立つであろう話をしてくれるので、大変タメになります。

真船：私は**学芸員の資格を取るための、「博物館学」**の授業が楽しみ。担当の先生が実際に博物館で働いている方なので、**先生が日々実践している話がとても興味深い**です。例えば、博物館は展示をすることが仕事だと思っていたけれど、展示用の資料を集めたり、保管をしたり、さらには来場者が楽しく観覧できるように展示を工夫したり、やらなくてはいけないことが、想像以上にたくさん。実際の仕事内容を知るだけでも、驚きの連続です。

池田：後期から受講している「**旅行産業論**」です。学んだことがない内容なので、とても興味深いですね。例えば都道府県別の旅行者数は、県によって全く違います。千葉県と栃木県は外国人旅行者が多いことが特徴的なんですけど、理由は千葉県はデイズリゾートが、栃木県は日光があるから。このようにどんな観光地があるかで、旅行者数や人種まで違ってくる。**観光客**



ITO



IKEDA

が多いと、地域の経済にはどのような影響してくるのかなど、授業が進むにつれどんどん面白くなっていきます。



皆さん一人ひとりが、授業に楽しさを見出しているのは、頼もしいですね。大学生活も慣れてきた頃だと思いますが、**授業以外で楽しいことはありますか？**

山本：大学生活に少しずつ余裕ができてきたので、時間がある時には宇都宮を散策しています。F.K.Dや駅前のララスクエアなど、いろんな所に行きますよ。

真船：私も、ララスクエアには行きますね。電車通学なので、待ち時間に服を見たり食事したり。でも一番は学食かな。友達とその日学校であったことかを話すのですが、その時間は楽しいです。

山本：学食は意外と美味しいよね。僕のおすすめはドライカレーかな。

真船：私は三二井をよく食べるんですが、日替わりなので毎日食べても飽きないですよ。

池田：私は後期に入ってから、自分でお弁当を作って持ってきています。

全員：おー

池田：初めは母に作ってもらっていたのですが、「そろそろ自分で作ってみよう」と言われて(笑)。お弁当を学食で食べているのですが、周りには友達もいるので、いろいろと情報交換をしながら楽しい時間を過ごしています。

伊藤：僕も学食で友達と食事をする時間は楽しいので、よく行きます。その他にも、ソフテニスサークルに入っているのですが、週2回の練習には欠かさず参加しています。地域経済学科の学生は自分一人で、周りには他学部。先輩とも触れ合えるので、また違った雰囲気を楽しんでいます。

真刺：練習する人が多いので、刺激になりますね。ナイターの練習時間は8時までなんですが、みんなで熱中しすぎてうっかり過ぎてしまって、警備員さんに怒られたこともあります(笑)。

さて、皆さん希望していた学科で勉強に励んでいることだと思えます。将来の目標をすでに持っている人はいますか？

伊藤：この学科を志望した動機が教師になることだったので、やはり**学校の先生になりたい**ですね。中学生の時に、友達に数学の問題の解き方を教えたことがあって、「分かりやすかったよ」と言われて嬉しくて、その時から教師になりたいって思っていました。生徒から、「先生の授業分かりやすいですね」と言われるような教師を目指しています。

山本：僕も**教師**です。親戚に学校の先生がいるんですが、その姿を見て、僕もこういう人になりたいなと思ったのがきっかけです。生徒から授業に興味を持ってもらうのは、かなり難しいことですね。知識も必要だし、面白く話せる話術も重要。身につけるべきことがたくさんありますが、



MAFUNE

目標に向かって頑張っています。

真船：地域経済学科で学んでいる影響もあるかもしれませんが、**公務員**が良いなと思いついています。あとは、会計事務所の事務など、**税務関係の仕事**。父が同様の仕事をしているのですが、ずっとその背中を見てきたので、興味がありますね。税務関係は人と人との信頼関係で成り立つ仕事なので、より興味があるのかも。授業では経営の勉強もしていますが、改めて、経営者って大変な仕事だな〜と思います。そういった経営者の方々を、会計事務所スタッフとして陰ながらサポートする仕事に興味を持っています。



池田：私は高校生の時に簿記検定を取得しているのですが、その**資格を活かせる仕事**に就きたいと思っています。そう考えると、事務職のかな。でも**地域経済学科で学んでいるのは、公務員など、実践として活かせる科目が多い**ので、これからどんな仕事の選択肢があるのか、調べていきたいですね。



YAMAMOTO

勉強をするにつれ、**将来の夢**が生まれてくるというのは理想的ですね。では、**大学に入ってから**の勉強で、「自分の意識は変わった」ということはありますか？

真船：例えば尖閣諸島の問題など、**時事的なニュースを授業で取り上げて説明**してもらって、意味を深く理解することができるようになりました。**ニュースに興味を持つようになり、見方も変わりました**ね。知識はこうやって増えていくんだなって実感しています。

池田：私は**フィールドワークで実際の現場に行ってみたこと**で、**考え方が変わりました**。本やテレビやインターネットなどで見たことのある場所でも、実際に現場の方の声を聞くと、理解が深まります。その場の雰囲気や、場所によっては建物自体の大きさに圧倒されることもあったり、実物を見て感じることも大切さも分かりました。

真船：**実際に現地に行ける授業があるのはいいよね**。私もこれから、博物館に実習に行く予定があります。自分で好きな博物館を選んで行けるので、今から楽しみです。

山本：僕自身はまだフィールドワークの経験が無いのですが、夏に経済学部が主催した、**東日本大震災の被災地視察**に興味を持ちました。今後こういった機会があれば、参加したいと思っています。被災地の生の声を聞くことは**重要だと常々思っている**ので、ぜひ経験してみたいですね。



では最後に、これから皆さんの後輩になるかもしれない人たちにに向けて、何かアドバイスはありますか？

山本：大学生活は、責任も伴うけど、**自由度が増します**。授業に出席するの欠席するの自分次第。でも、**単位が取れなければ**もちろんNG。高校生の時みたいに、担任の先生がすべての面倒を見てくれる訳ではありません。そういった自由の中で、**時間割をつくってサークルやアルバイト等**自分の時間を作りだしていく。そしてやりたいことを一生懸命にやる。**大変ですが、**



まだまだ聞いてみたいことはありますが、今回の座談会はここまで。キャンパスライフはまだ始まったばかりです。地域経済学科の1期生として、ぜひ今の気持ちを忘れず**がんばってください**。本日は、ありがとうございました！

伊藤：宇都宮キャンパスには、経済学部だけではなく、理工学部の学科や柔道整復学科もあります。例えば、「**宇宙工学入門**」などの他学部の授業も、受けようと思えば**地域経済学科の学生も受ける**ことができます。そこは、**単科大学ではなく総合大学の強み**であり、面白いですね。

池田：やはり私も、**時間が自由に使える**というのが大きいですね。与えられる授業ではなく、**自分の興味がある授業を受けられる**ので、毎時間楽しみにしています。この楽しさは、**大学に入學しないと実感できない**と思います。

宇都宮キャンパス後援会の取り組み



今年も帝京大学宇都宮キャンパス後援会から、図書館用の雑誌等の購入、マロニエの木の植樹、成績優秀者表彰の際の副賞、11月に開催した学園祭への協賛など、様々なご支援をいただきました。10月には、野球場やグラウンドを均すための「グラウンド整備車」上記写真を新たに購入していただき、学生がより快適にスポーツの授業やクラブ活動に取り組めるよう、ご配慮いただきました。11月には、学業を継続する上で経済的な支援を必要としている学生たちに「後援会奨学金」を給付していただきました。さらに、3月11日の東日本大震災によって、住居に多大な損害を受けた学生や、原子力災害により避難を余儀なくされている学生に対しては、見舞金をお寄せいただきました。今後も引き続き、後援会からのご支援に基づく活動をご報告していきます。



学友会主催「帝京杯」開催!

学友会の企画・運営により例年行われる学内球技大会「帝京杯」が、11月に開催されました。今年は、学生から要望が多かった「バスケットボール」と「ドッジボール」の2種目を実施。全24チームの参加があり、5日間わたるトーナメント戦により勝敗を競いました。優勝チームへの賞品として商品券が用意されていたこともあってか、白熱した試合が繰り広げられました。また、バスケットボール部によるエキシビションマッチも同時開催。日頃の練習の成果ともいえる洗練されたプレーで、観衆を大いに沸かせました。



バスケットボール 優勝
「いるはず」



ドッジボール 優勝
「かめさんず」

キャンパス内に帝京豊郷台柔道館が完成



7月、宇都宮キャンパス敷地内に、帝京豊郷台柔道館が開設されました。館内はバリアフリー。柔道場は畳145帖と、世界水準の試合の雰囲気と緊張感を普段の練習でも体感できるように、国際規格に基づいた広さです。現在柔道館は、柔道整備学科での実技授業やクラブ活動で使用される他、柔道を通じて地域の方々と帝京大学がより身近なものとなり活性化へと繋がられるよう、青少年育成のための柔道体験の場所としても使用されています。柔道体験の指導には、館長として、帝京大学女子柔道部(八王子キャンパス)の監督を務め、谷野千道手はじめ数多くの有望な選手を育て上げた稲田明先生(七段)が就任。楽しく元気な「のびのび」と技を磨き、礼儀を重んじるたくましい青少年の育成を目指します。

※柔道体験は、月・水・金土の17:00~19:00に開催中

バイオサイエンス学科に新温室



10月、バイオサイエンス学科棟の東側に、新しいガラス温室が完成しました。146.2平方メートルの広さの温室は、2台の電気式エアコンによって温度調節されていて、植物培養用のベンチが18台整備されているほか、藻類などの培養のための4基の水槽も設置されています。新温室では、植物の栽培や藻類の培養を1年を通して行うことができるので、植物や農作物の研究・教育に大いに役立つものと期待されます。

